

● 顕現後第四主日 泉のほとり

今日の詩篇 「第九二編」

主の家に植えられ

わたしたちの神の庭に茂ります。



わたしについて来なさい

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われました。ペテロ、アンデレは網を捨ててついて行きました。同じ漁師の仲間であるヨハネとヤコブのこともお呼びになりました。彼らも船と父親とを残してイエスさまについて行きました。イエスさまのことばかり自分の生業をも捨ててついて行くほどの力を見たのだと思います。しかしこの時にはキリストが言われた「人間をとる漁師」の意味がまだよく分かりませんでした。

人が大勢集まってイエスさまに従いました。キリストを通してなされるあらゆる奇跡、力を見て人々はこの方こそ圧倒的な力をもって自分たちを解放し、イスラエルを回復し、イスラエルに慰めを与えるメシアだと期待していったのです。特に「人間をとる漁師にしよう」と言われてついて行き、主イエスのすぐ側にいた弟子たちの期待は彼ら以上のものでした。身近にいた弟子たちでさえ「罪」から救うために来られたメシアを望んではいなかったのです。そういう貧しい心とは遠く、かえってキリストが王になった時、誰が一番偉いのかと心に抱いていました。実際にそのことで議論したこともありましたが、そのうちのヨハネとヤコブは「早い者勝ち」とでも思ったのでしょうか、他の誰よりも先に「あなたが王になった時、一人はあなたの右に、もう一人はあなたの左に座らせてください」と頼んだこともありませう。網は捨てても、捨てた網以上のものを心に抱いていたのです。しかもそのことはイエスさまが十字架で死ぬ時が近づいたことを弟子たちだけに打ち明け

た時に起こったのです。キリストについて行きながらも、まだこの世のものを愛している心でして。しかし誰でも二人の主人に仕えることはできません（マタイ六章二四節）。

人間をとる漁師になるためには、まずそのような弟子たち自身の現状がはっきりと知らされなくてはなりません。後に心を痛める大変な時が待っていたのです。ついて行くどころか、彼らは自分たちの主を捨てて皆、逃げて行きました。弟子のペテロは二度「イエスという男を知らない」と否定しました。しかし彼らが心を心から愛する「漁師」になるためには必要不可欠なことでした。彼ら自身の現状は、キリストの愛を知らない自分たちへの「愛」によって、更に知らされるものでした。十字架を前にして逃げ去っていき「ついて来る」ことができない弟子たちを予告されたキリストは、そのつまずきゆえに、彼ら自らキリストとの関係を断絶しないようにと、かえって立ち直るようにと、捕らえられる夜、彼らの足を洗ってくださったのです。そして復活後にご自身の愛する者たちに再び訪れてくださいました。弟子たちを唯々愛し抜かれたキリスト。混じり気のない、真実な、全き愛を示された復活の主の前で「あなたの右に、あなたの左に」と言う人はなく、もはやそれは「古い自分」となっていたのです。

マタイの4章でキリストは「人間をとる漁師になりました」とは言われませんでした。キリストは「人間をとる漁師にしよう」と言われたのです。復活なさった主は、もう一度、弟子のペテロに「ついて来なさい」と言われるのです。尚々、キリストの似姿に、精練された「人間漁師」になっていったのだと思います。

霊的な体操

あなた自身を敬虔へと修練しなさい。

テモテへの第一の手紙四章七節

（これは「・」・「」の私訳。新共同訳では「信心のために自分を鍛えなさい」と訳している。）

是非ともわたしは敬虔でありたい。

しかし、わたしがこの自分に

また他の人にも認めるその敬虔を

わたしは好まない。

聖なる神よ、

わたしは理由を知らねばならない、

あなたがなおのこと

彼らを好まぬその理由を。

祈るときには

我らを生温かく怠惰に留めることなく

我らがいまだ至らぬものに

成らしめてください。

修練しなさいとパウロが言うとき、彼は、まさにその営みが熱意と努力を要することを示している。神を怖れることなくして、他のどんなことに対する熱意もすべて無駄である。神を怖れるとは、この脈絡では、良心に責められることなく、霊において神を真に讃えることの謂である。

R・ポーレン

カルヴァン「祈る」より

今日のお知らせ

○第一礼拝後、ロビーでのコーヒーサービスと、圖書二階リズム室では、「ぶどうの会」が開かれます。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の会をします。お昼はお介当です。

○午後一時半から、横手信子姉の記念会をホールで行います。

○今週三〇日（火）午後二時から、日本キリスト合同教会の委員会が品川教会で行われます。委員はご出席ください。

○四月一日のイースター礼拝で、受洗・転入会をご希望の方は、今日中に入信記を牧師あてご提出ください。なお第一回の受洗決心者講座を二月九日（金）午後七時からカナルルームで行います。受洗・転入会希望者はご出席ください。なお当日都合の悪い方は、牧師までご連絡ください。

○紫園香音楽伝道師は、本日より四時から日向キリスト教会で、コイノニアチャリティコンサートのお祈りをいたします。お祈りください。

フランクフルトだより

アドベントの過ごし方

十二月三日の日曜日、当地では雪が降って積もりました。夫と娘が大きな雪だるま一つと小さな雪だるまを二つ作りました。十一月末から各地ではじまったクリスマススマルクトで街は賑やかです。

週2回の今学期最後のドイツ語レッスンは、イエスキリストの誕生が描かれた絵本を読み、クリスマスの過ごし方を学びました。これまでに聴いたこと、体験したことをお伝えします。

アドベント四本のキャンドルは、礼拝だけでなく、各家庭で日曜ごとに点灯し、友人をお茶に招いた時等にも該当のキャンドルに火を灯して過ごすようです。リースに直接キャンドルを載せたりすることも初めて知りました。作り方を教わって、伝統的なりんご、オレンジ、シナモンの飾りもつけました。クリスマス前日お店は午前中に終わり、当日は家族でゆっくり過ごす日です。当日朝から子供たちは居間以外の部屋や庭などで過ごす、親が鳴らすベルの合図で居間に入り、クリスマスツリーとプレゼントを見ることができるようです。レッスンでは私たち生徒も

ベルの合図で会場に迎え入れてもらいました。子供たちにとって大きな関心事がもう一つ、十二月六日の聖ニコラウスの日です。良い子には、前夜にニコラウさんが靴下に小さなプレゼント(りんご、オレンジ、クルミなど)を入れてくれるそうです。今まさにその前夜なのですが、驚いたことに我が家にもう既に来てくれたようです。ドイツ語のメッセージも添えられています。嬉しいご近所さんに恵まれています！

山城芳子記



聖書の会へどうぞ

1月31日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「あなたたちの頭に降りかかれ」

使徒18章1〜11節

黄允湜副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「神の言葉は滅びない」

ルカ21章29〜38節

吉村和雄牧師

ミニコンサート

2月1日(木) 12時30分

「24の奇想曲作品1より」ほか

バイオリン演奏 中川あんな

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讚美歌 讃2-17番 わたしのように

説教 「あなた方は地の塩、世の光」

聖書 マタイ5章13節〜16節

説教者 黄允湜副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讚美歌 17番 324番

詩編 第60編

説教 「キリストの弱さと強さ」

聖書 II コリント13章1節〜4節

説教者 吉村和雄牧師



第一礼拝 (午前 9 時 30 分)

讃美歌 今日もまた新しく 121番

説教 「心の貧しい人は幸い」

聖書 マタイ5章1節～12節 (新約P6)

司式 森 洋之 兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「アンダンテ」J.S.バッハ

○「今日もまた新しく」聖公会讃歌16番

1. 今日もまた新しく 鳥 歌い 喜ぶ
み言葉に 生かされて たたえよう この日を
2. 草木にも 恵み満ち 雨 露の 輝き
神の園 しのばせる たたえよう この日を
3. ひとすじの 光より 生まれでる この朝
声高く ほめ歌え み手による この朝 アーメン

○ピアノと歌による讃美

「主我を愛す」讃美歌21-484番

○讃美歌 121番

1. 馬槽のなかに うぶごえあげ
木工の家に ひととなりて
貧しきうれい 生くるなやみ
つぶさになめし この人を見よ
2. 食するひまも うちわすれて
しいたげられし ひとをたずね
友なきものの 友となりて
こころくだきし この人を見よ
3. すべてのものを あたえしすえ
死のほかにも むくいられで
十字架のうえに あげられつつ
敵をゆるしし この人を見よ
4. この人を見よ この人にぞ
こよなき愛は あらわれたる
この人を見よ この人こそ
人となりたる 活ける神なれ アーメン

聖餐曲「小さいひつじかい」C.ドビュッシー

後奏曲「アレグロ」C.P.H.E.バッハ

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 130番 502番

詩編 第92編 (旧約P931)

説教 「死ぬはずのこの身に」

聖書 IIコリント4章7節～15節 (新約P329)

説教者 菊池美穂子 姉

聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「我らの主キリストはヨルダンに來たり」

J.S.バッハ

○讃美歌 130番

○ピアノと歌による讃美

「主我を愛す」讃美歌21-484番

○聖歌隊による讃美

「あめなる喜び」 編：山元富雄

あめなる喜び こよなき愛を
たずさえくだれる わが君イエスよ
救いの恵みを あらわに示し
いやしきこの身に 宿らせたまえ
命をあたらう 主よとどまりて
我らの心を とこ宮となし
あしたにゆうべに 祈りを捧げ
たたえの歌をば 歌わせたまえ
我らを新たに つくりきよめて
栄えに栄えを いや増しくわえ
御国にのぼりて 御前にふす日
御顔の光を うつさせたまえ アーメン

○讃美歌 502番

聖餐曲「アダムの罪によりて」J.P.スクリャービン

後奏曲「アレグロ」C.P.H.E.バッハ

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。